

安全運転

ほっと NEWS

2013年7月号

今月のクイズ

平成24年中の警察庁のデータによると、相手の存在を認知していたのに相手の動きに対する判断を誤ってしまった(動静不注視)事故は、約7万1千件も発生しています。これは、交通事故全体の約何%を占めているでしょうか。

①6% ②11% ③16%

(答えは裏面)



TOKIO MARINE
NICHIDO

見ていたはずなのに事故になる!?

～なぜ、相手の動きを見極められず、結果的に判断を誤るのか?～

渋滞で車が止まっているときに「隣の車が動いたのでつられてブレーキから足を離そうとしたら、先行車が止まったままであることに気がついた」ということはありませんか。前を向き、目は先行車をとらえているはずなのに、相手の動きに対する判断を誤ってしまう「動静不注視」は、なぜ起きるのでしょうか。

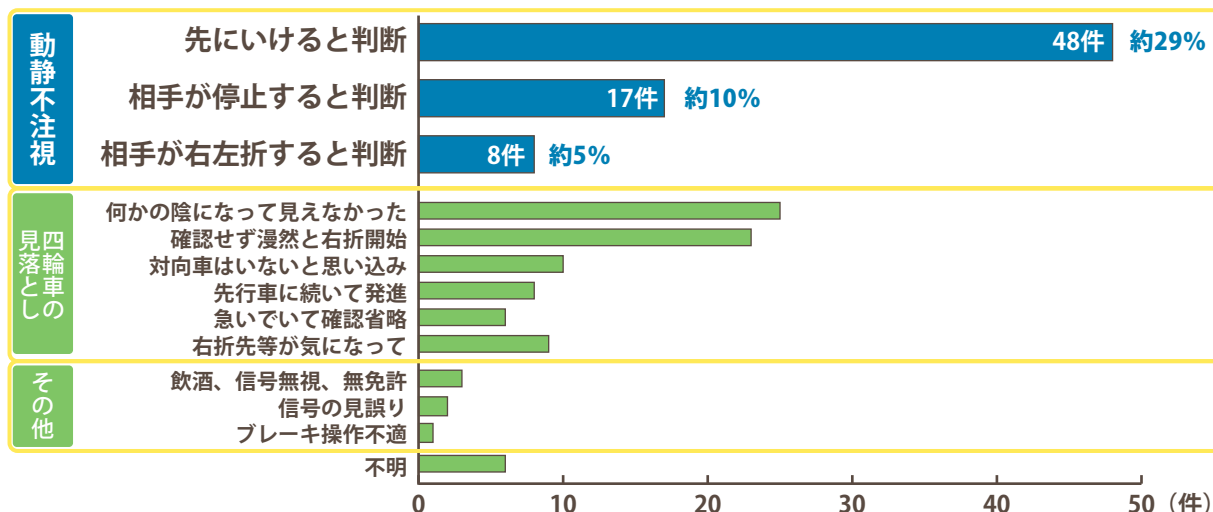
今月は、この「動静不注視」によって起きる事故の内容を分析するとともに、どのようにして判断を誤り事故を起こしてしまうのかをみてみましょう。

■ 動静不注視により、どのような事故が起きているのでしょうか

交差点で右折する際、ドライバーは対向車の動きを見てその距離を感覚でつかみ、「自車が先に曲がれるか」、「対向車をやり過ごすか」を瞬時に判断し、運転しています。

平成20年～22年の3年間に、信号のある交差点で起きた右折時の車対車の死傷事故を、ドライバーの人的要因別にみると、安全不確認に続いて動静不注視が2番目に多く、全体の約17%を占めています。交差点での右折では、確認することが多く、複雑な判断と操作を繰り返さなければならない状況です。そのなかで、相手の動きに対する判断を誤って事故が発生していることがわかります。

では、どのような誤った判断によって、事故を起こしているのでしょうか。平成12年～21年の10年間に、右折時に車と衝突事故を起こしたドライバーに、聞き取り調査を行い分析した結果(図1)をみると、「先にいけると判断」したドライバーが48件で全体の約29%を占めています。他にも「相手が停止すると判断」、「相手が右左折すると判断」など、自車に都合よく判断し行動してしまった結果、事故を引き起こしています。なぜ、対向車を認知していたにもかかわらず、自分にとって都合のよい判断をしてしまうのでしょうか。



(図1) 四輪車対四輪車「右折時事故」を引き起こした側の人的事故要因

向車と歩行者に注意

① ドライバーは走行上危険と思われる対象を見て、その動きに注意を払います。

対向車と歩行者
などに注意

② 注意している対象に関することを、知識や経験から拾い上げます。

思い込みによる判断をしてしまい、結果的に危険な行動を取りやすくなります。

対向車が来
までに、ま
時間がかか
と判断

対向車が、交差点に差し掛かる可能性がある
と判断

③その先に起こりうることを推測して、安全に右折するためにはどうしたらよいかを考えます。

危険とわかっていても、「先に行ける」と自分に都合のよい推測をして、安易に「大丈夫」と考えがちになります。

速度を上げれ
「先に行ける」

黄信号なので、
速度を上げて通
過するかもしれ
ない

④ 考えをもとに判断し、運転操作を行います。

判断を誤り、事故につながる危険性があります。

大丈夫だと思
ったのに！

対向車の通過
を待って、右
折しよう！

- ・十分に注意をはらい正確な情報を取得し、安全な対処方法を考えましょう。
- ・正しい知識や十分な経験をもとに、思い込みで頼らない推測を行いましょう。

②11%（出典：警察庁「平成24年中の交通事故の発生状況」）

© 2013 東京海上日動火災保險株式会社